

12月議会がはじまります

江南市議会 12 月定例会が2日に開会。11 月 30 日には臨時議会も開かれる予定です。主な予定議案は

臨時議会

- * 人勤に準じた市職員給与の改定(条例改正)
平均△0.2%(実質、50歳台中心に40歳台以上の職員給与を0.5%~0.4%引き下げ)、これに伴う補正予算

12 月定例会

- * 古知野児童館、藤ヶ丘児童館の指定管理者を指定 NPOキッズサポート江南に H24 年度から 5 年間
指定管理料(債務負担行為) 1 億 2845 万円
- * 一般会計補正予算 1 億 9121 万 3 千円の減額補正
 - ・ 子ども手当の見直し △2 億 8656 万円
 - ・ 布袋鉄道高架事業で名鉄への負担金 4,256 万円
 - ・ 消防訓練用地取得費 5,181.1 万円
(消防署西隣 581 m²を市が購入し、訓練用地に)

2012年度の予算要望書を提出します

日本共産党江南市議員団は 2012 年度の予算編成にあたり、寄せられた願いを約 100 項目の要望書にまとめ、11 月末に市長に提出し文書回答を求めます。(要望書の内容は、後日お知らせします)

12 月議会一般質問でも、その一部を取り上げます。

議会にも災害対策本部を

津波と放射能汚染の被害を受けた北茨城市などを
党議員団で視察(11 月 16~17 日)

北茨城市は茨城県の最北端、福島県境に位置する人口約 4 万 7 千人の市。東日本大震災では、震度 6 弱の地震と 5~6m の津波で、死者行方不明 6 人、全壊・大規模半壊 772 戸などの大きな被害に見舞われました。さらに福島第一原発から約 80 キロの距離のために、放射能汚染と風評被害という深刻かつ長期化する原発災害の只中で苦悩しています。

北茨城市議会は H22 年 6 月に、全国的にも珍しい市議会災害対策本部設置規程と対応マニュアルを整備しました。大震災時には規程にもとづき、議会災害対策本部を設置。全議員が所属委員会ごとのグループ行動で、被災地域や避難所、病院、道路港湾の実態把握と被災住民の聞き取りを行い、つかんだ情報を毎晩の市災害対策本部会議に報告し、対応策を執行部側に提案。市長の即断で次々に有効な手が打たれました。

大災害時、各議員がバラバラに動きかえって市職員の動きの妨げとなったり、「議員の動きが見えない」と批判を受けた所が多い中、北茨城市では、議会と市執行部が一体となった災害対策本部が機能し、議会が市民と市執行部とのパイプ役を果たすことができたそうです。

江南市議会でもこれを参考に、大災害時の議会のあり方につ

市民が直接、市に声を届けました

巡回バスを早く! 住宅リフォーム助成に追加予算を!

11 月 8 日(火) 江南団地集会所で「いこまい CAR について学ぶ」市の出前講座が開かれ、27 人が参加しました。主催は江南厚生病院まで定期交通を走らせる会。

市民サービス課の小塚課長から、いこまい CAR 利用者は高齢者が多く 70%が通院に利用しているなど詳しく説明がありました。「名鉄バスで厚生病院へ行くのに『愛栄通り』で乗り

換えようとすると、ベンチもない所で 30 分も待たなければならないときがある」など、巡回バス実現を求める声が相次ぎました。



尾北民主商工会が市に対し、営業と暮らしを守るため

の要望書を提出し、11 月 8 日、要請交渉を行いました。「住宅リフォーム補助制度にぜひ追加予算を」「国保税の滞納実態を把握し、減免を一宮市のように拡充してほしい」など、業者の窮状を反映した切実な交渉でした。

* いずれも、日本共産党江南市議員団が参加しました。



いて真剣に検討する必要があるのではないのでしょうか。

また視察の前後、日本共産党北茨城市議の鈴木康子さんに津波被害にあった沿岸部を案内してもらいました。鈴木市議は無農薬で米・野菜・卵をつくる「農家の母ちゃん」でもあります。

「津波被害だけならいずれ復興はできるが、放射能汚染はどうにもならない。風光明媚な漁業と観光のまち、無農薬農法など、これまで積み上げてきたまちづくりへの取り組みが水の泡。市長先頭に東電に怒りをぶつけている。40キロ離れた東海原発も大震災時、実は冷却用電源の一部が失われ危機一髪の状態だった。」……3.11 以降の憤りを江南市議員団にぶつけるように、しゃべり続けた鈴木市議。

震災・原発災害からの復興の苦難を思い知ると同時に、頼もしい日本共産党市議の存在が嬉しい交流となりました。

翌日 17 日は東京都国立市で、生き生き都市農業推進事業について研修しました。(後日、報告します)

ストップ! TPP 日本の食・暮らし・命を守ろう